

平成 29 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

| | | | | | |
|--|--------|------|------------------|-------------|--|
| 区分 | 指導 | 題名 | ダイズ紫斑病の新規防除薬剤の評価 | | |
| [要約] ダイズ紫斑病の新規防除薬剤ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤（商品名：ニマイバー水和剤）は紫斑病防除効果が高く、1回散布でも十分な効果が得られる。 | | | | | |
| キーワード | ダイズ紫斑病 | 防除回数 | 殺菌剤 | 環境部 病理昆虫研究室 | |

1 背景とねらい

岩手県では、ダイズ紫斑病防除薬剤を1回散布で効果が得られる薬剤（アゾキシストロビン水和剤）と、2回散布が必要な薬剤（イミベンコナゾール水和剤等）に区分して防除に活用している（参考資料1）。

今回、新規の2薬剤（ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤、ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤）がダイズ紫斑病防除に活用できる見込みとなったことから、これら薬剤の効果を明らかにし、指導上の参考とする。

2 成果の内容

- (1) ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤（商品名：ニマイバー水和剤）はダイズ紫斑病防除効果が高く、1回散布で十分な効果が得られる（図1、2）。
- (2) ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤（プロポーズ顆粒水和剤）は、他剤との組み合わせによる2回散布が望ましい。
- (3) ダイズ紫斑病に対する各種薬剤による防除体系は表1の通りである。

表1 ダイズ紫斑病防除薬剤の防除効果と薬剤防除体系（水和剤、乳剤、フロアブル剤）

| 種類名 (商品名) | 系統名 | 希釈倍数 ・使用量 | 紫斑病に 対する 防除効果 | 薬剤防除体系 |
|--|------------------------------|----------------|---------------------|----------------------------|
| アゾキシストロビン水和剤 (アミスター20フロアブル) | QoI 殺菌剤 | 2000～ 3000倍 | ◎ | |
| ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤 (ニマイバー水和剤) | N-フェニル カーバメート +MBC 殺菌剤 | 1000倍 | ◎ | 1回散布で十分な効果が期待できる。 |
| イミベンコナゾール水和剤 (マネージDF) | DMI 殺菌剤 | 3000倍 | ○ | 他剤との組み合わせによる2回散布が望ましい。 |
| ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤 (プロポーズ顆粒水和剤) | CAA 殺菌剤 +クロロニトリル | 1000倍 | (○) | |
| イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤 (ベルコート水和剤、ベルコートフロアブル) | ビスグアニジン | 1000倍 | ○ | 1回目散布と2回目散布の散布間隔は10日程度とする。 |
| マンゼブ水和剤 (ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤) | ジチオ カーバメート | 400倍 | ○ | |
| 銅水和剤 (Zボルドー) | 無機化合物 | 500倍 | ○ | |

※プロポーズ顆粒水和剤は、だいに作物登録を有するが、紫斑病の適用がない(2018.1.15現在)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) ダイズ紫斑病に対する防除適期は概ね開花 20～40 日後（若莢期～子実肥大期）であるが、1回散布の場合の防除適期は開花 25～35 日後である。
- (2) 耐性菌の発生を回避するため、アゾキシストロビン水和剤は2～3年に1回の使用にとどめる。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域の普及指導員、JA営農指導員
- (2) 期待する活用効果 高品質なダイズが生産されるとともに、生産コストが低減される。

5 当該事項に係る試験研究課題

(402) 新農薬の効果検定と防除指針作成 [H9-30/民間委託]

6 研究担当者 岩館康哉

7 参考資料・文献

(1) 岩手県農業研究センター 平成 20 年度試験研究成果 (指導) **ダイズ紫斑病の効率的な薬剤防除体系**

8 試験成績の概要 (具体的なデータ)

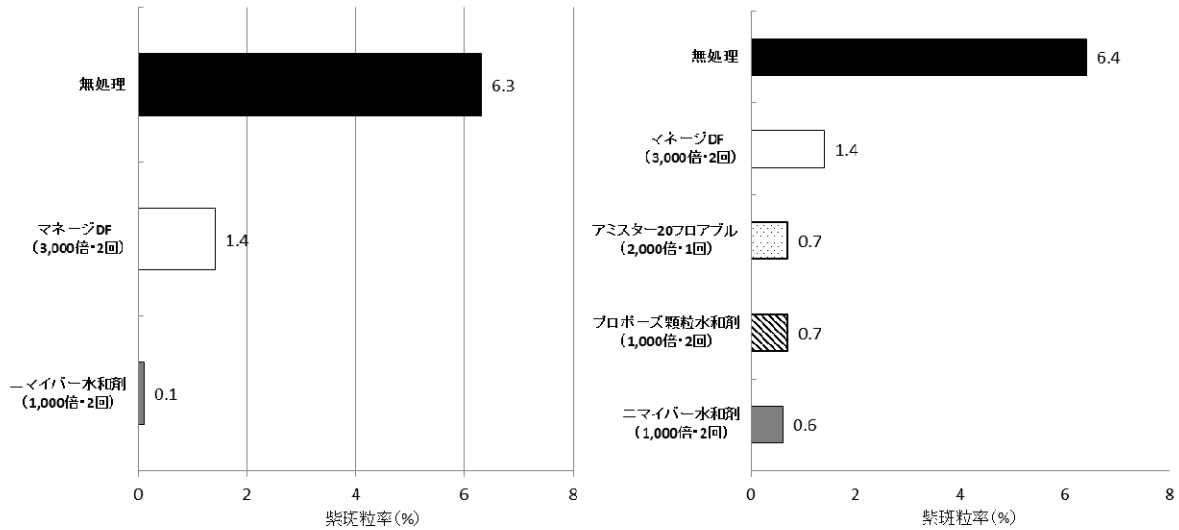


図 1 各薬剤のダイズ紫斑病に対する防除効果 (左: 平 24 年度、右: 平成 27 年度)

※各薬剤の () 内の値は希釈倍数・散布回数

《試験概要》

- 平成 24 年度: 栽植密度: 条間 70 cm × 株 30 cm、2 粒/株播種 接種: 紫斑病汚染種子を使用
品種: リュウホウ 播種日: 6/11 開花期: 7/31 薬剤散布: 1 回目 8/23、2 回目 9/3
 - 平成 27 年度: 栽植密度: 条間 70 cm × 株間 14 cm、1 粒/株播種 接種: 紫斑病汚染種子を使用
品種: リュウホウ 播種日: 6/3 開花期: 7/29 薬剤散布: 1 回目 8/28、2 回目 9/8
- ※ 1 回防除区は 1 回目のみ実施

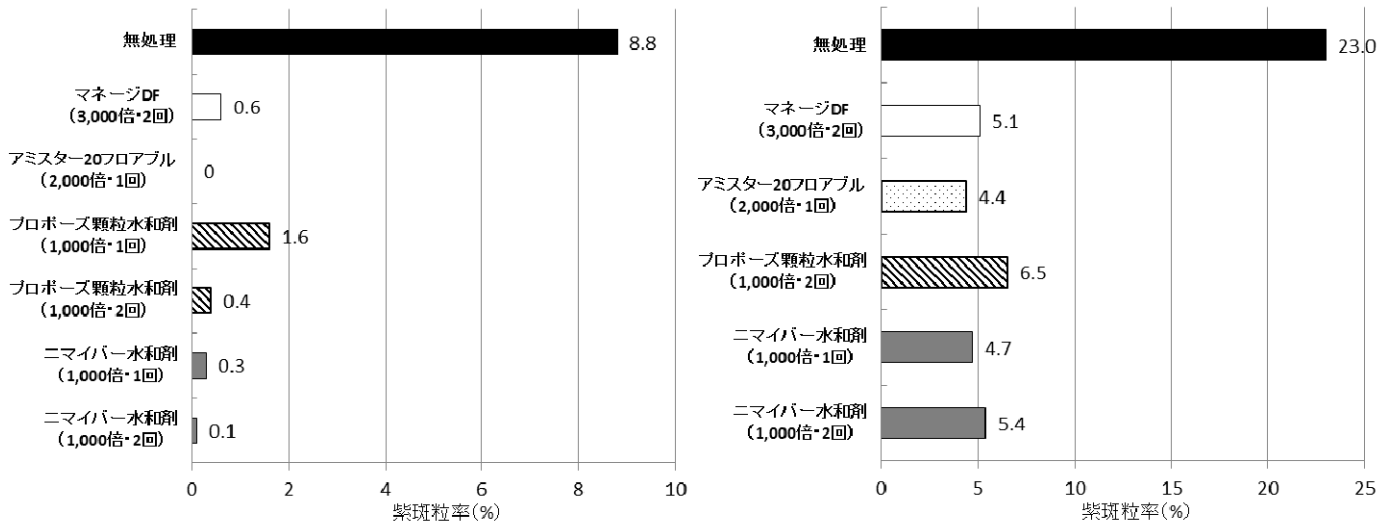


図 2 各薬剤のダイズ紫斑病に対する防除効果 (左: 平成 28 年度、右: 平成 29 年度)

※各薬剤の () 内の値は希釈倍数・散布回数

《試験概要》

- 2 カ年共通: 品種: リュウホウ 栽植密度: 条間 70 cm × 株間 14 cm、1 粒/株播種 接種: 紫斑病汚染種子を使用
 - 平成 28 年度: 播種日: 6/3 開花期: 7/30 薬剤散布: 1 回目 8/23、2 回目 9/2
 - 平成 29 年度: 播種日: 6/6 開花期: 7/31 薬剤散布: 1 回目 8/23、2 回目 8/31
- ※ 1 回防除区は 1 回目のみ実施